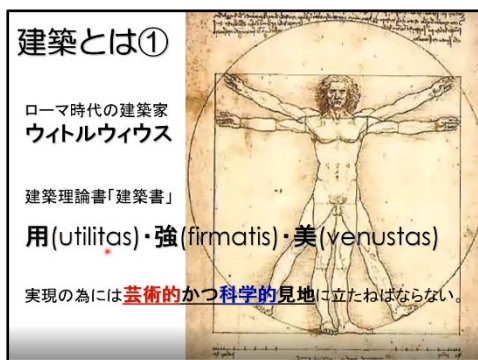


2022年度理系チャレンジ講座（第2回）を実施しました

6月29日（水）に理工学部の姫野 由香先生を講師に迎え、「景観づくりと地域づくり ―建築・まちづくりの視点から―」というテーマで、理系チャレンジ講座第2回を実施しました。遠隔配信した安心院、国東、大分雄城台、大分西、大分舞鶴、大分豊府、芸術緑丘、大分南、大分東、津久見、玖珠美山、大分の12校99名が受講しました。

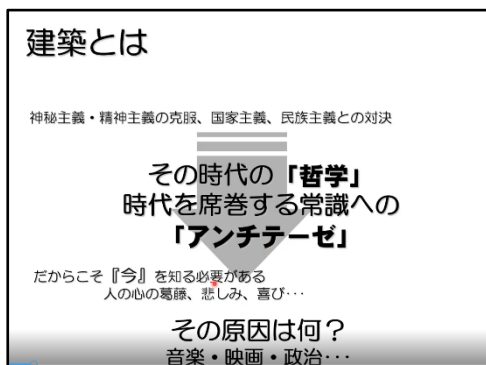


姫野由香（大分大学）



建築・都市計画が専門の姫野先生から、まず建築とは何か、建築学とはどのような学問であるのかについての話がありました。先生は、ローマ時代のより現代にいたるまで、建築とは「用・強・美の3要素が不可欠」であり、「実現のためには芸術的かつ科学的見地に立たねばならない」もので、「あらゆる芸術と工業技術の総合による新しい総合芸術」であるということ、そして建築学とは時代を生きる人が存在する空間」を設計するため、人の心の機微を探る文学・社会学という学問や文化・

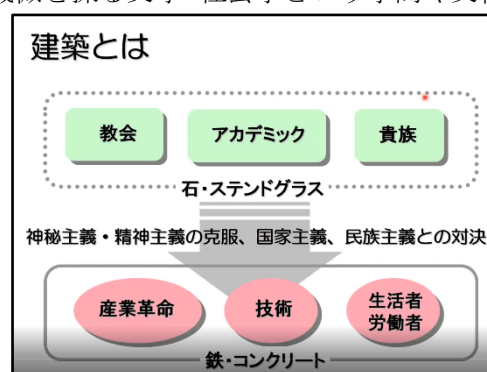
芸術とも深く関わるということを説明されました。次に景観づくりや地域づくりについての話があり、一見全く異なるように見える都市と田舎も「地域に合った人のくらしが存在し、そこに暮らす人々のプライドを支える仕組みやルールがある」という共通点があること、だからこそ都市と農村が抱える課題は世界共通の課題であること、景観を支え続けていくには人の営みを支えていかねばならないことを説明され



ました。大分県内の杵築市や津久見市の「地域づくり」や「景観まちづくり」の取り組みの様子について、多くの写真を提示しながら話をされました。その後生徒からの「建築を学ぶ上で最も大切なことは？」の質問に「建築は財産であり、人の命に関わる。故に最も大切なものは責任感だ」との回答をされました。

受講生からは「とても分かりやすかった。これから自分が何を調べるべきか、どうすればいいかなどを考えることができ

た。」「建築で一番大切なことは？という質問に対して即座に責任感と答えられていたことにとっても驚いた。先生は日頃から胸に刻まれているのだろうと感じた。」「建築によってもたらされるその地域や文化への影響などの内容があまり理解できていなかった。今日の授業を受けて建築とは地域全体の未来を創ることの手助けをしていると感じた。まずは今住んでいる地域の課題や魅力に目を向け、私に何かできることはないか日々研究していきたい。」等の感想が寄せられました。



地域づくり・景観まちづくり

誇り・責任

地域を支える 文化・知恵・産業…

人
最も大切

技術や専門知識を活用して
九州の日本の世界の暮らしを
魅力的にしてくれる人